

感知器



① 差動式スポット型熱感知器



② 定温式スポット型熱感知器



③ 光電式スポット型煙感知器

図は代表的な、感知器を示しています。まず1つ目が図①で差動式といい、急激な温度変化により感知するタイプです。そして図②は定温式といい、一定温度に達すると感知します。熱を感知するタイプは2つありますね。そして最後は図③の煙を感知するタイプですね。



発信機



人が感知器よりも先に火災を発見した場合、発信機を押下することにより、感知器と同じように火災信号を受信機に送ることができます。自動だけでなく、手動でも火災を知らせることができるんですね。



地区音響装置



最後に、受信機が火災信号を受信すると、地区音響装置に信号が送られて、鳴動します。この地区音響装置の鳴動によって、火災発生を周囲の人に知らせてくれます。



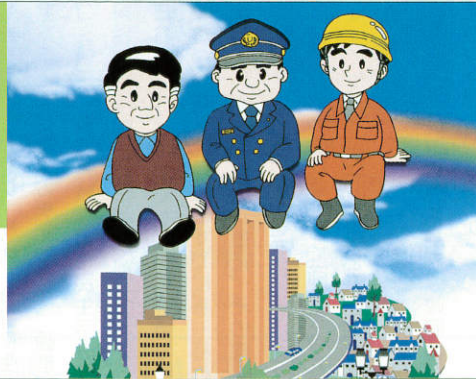
最後に

みなさん。どうでしたか。自動火災報知設備について、理解できましたか。火災発見を早期化するために自動火災報知設備は発明されました。また、火災をいち早くみんなに知らせてくれる設備があるおかげで、私たちは初期消火や早期避難することに専念できるようになりますよね。すなわち、火災を発見した時に、私たちはどのような措置や行動をとるかということも、とても重要になってきますね。皆さんも普段から火災に遭遇した時の行動を考えていてくださいね。



**点検済証の貼付は
適正な点検の証しです
必ず貼付しましょう**

一般財団法人 大阪府消防防災協会
〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町2番13号(ワキタ天満橋ビル4階)
電話 06 (6943) 7654 (代) FAX 06 (6941) 6504



自動火災報知設備を知ろう!!

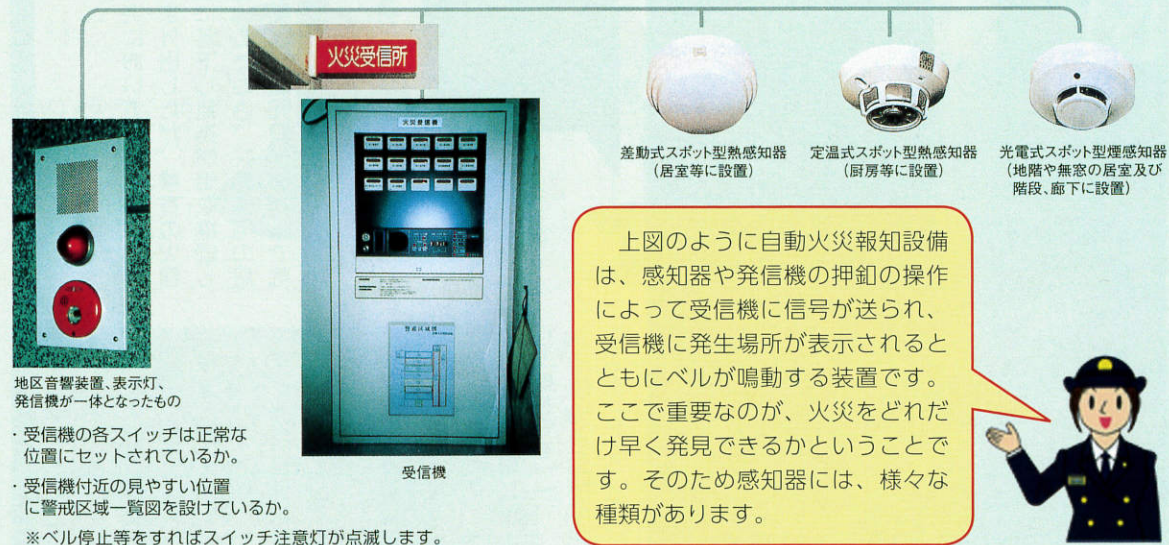
予防部規制課(建築・設備)



みなさん、こんにちは。消子(しょうこ)です。3回目となる今回は、自動火災報知設備について勉強したいと思います。自動火災報知設備は、消防用設備等のうち警報設備に分類され、その名の通り火災の発生を自動で知らせてくれる設備です。人が建物内部のあらゆる場所を絶えず監視しなくても、火災を早期に発見して、周囲の人に知らせてくれます。すごいですね。それでは、一緒に勉強していきましょう!!

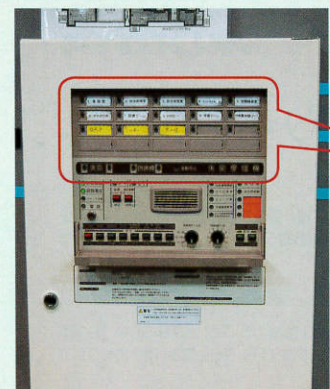


自動火災報知設備の仕組み



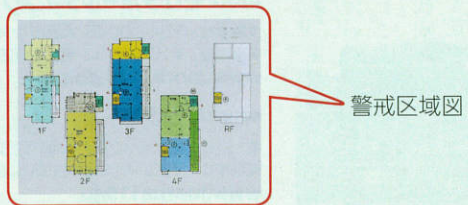
構成機器

受信機



受信機は、防災センターなど常時人がいる場所に設置しています。そして火災が発生した時には、感知器と発信機により受信した信号を受けて、火災の発生場所を表示してくれます。また、受信機の近くには、警戒区域図が掲示されていますので、火災発生場所がイメージしやすくなっています。

ここに火災発生場所が表示されます。



警戒区域図

